

**「即日入居可能な就労・
生活支援付き住宅を提供し、
就労支援を集中的に行う事業」
【実施報告書】**



公益財団法人パブリックリソース財団が行う
コロナ寄付プロジェクト「雇用喪失・生活困窮分野助成基金」助成事業

1 事業概要

(1) 事業内容

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、失業や減収により住まいを失った方に対し、2ヶ月間無償で、就労・生活支援付き住宅（以下、就労準備ハウス）を提供し、集中的な就労支援と生活課題の整理を行い、就労による早期自立を目指す。

(2) 事業実施期間

2022年7月1日～2023年2月28日

(3) 事業対象イメージ

- ・ ネットカフェやシェルターに居ながら仕事をしている方。
- ・ 住まいを確保した上で就職活動をしたい方。
- ・ 生活のこと仕事のことを相談したい方。
- ・ 緊急連絡先や保証人の確保が難しい方。
- ・ アパートを借りるための初期費用の準備が難しい方。
- ・ 家具家電の準備が難しい方など、様々な理由で住まいの確保が困難な状況にある方を対象に、住まいの提供やサポートを実施。

(4) 就労準備ハウス利用までの流れ

- ① 本人もしくは支援機関・関係者からの連絡（②の日時調整）
- ② 状況確認のための面接と事業説明
- ③ 部屋の内覧
- ④ 利用開始



(5) 就労準備ハウスの特徴 ①

- 家具家電付きの部屋に入居できます。
- 家賃・共益費が2ヶ月間無料です。
- 光熱水費が2ヶ月間無料です。
- 食材・生活消耗品を2ヶ月間は無償で提供します。
※入居時の賃貸借契約を締結します。

(6) 就労準備ハウスの特徴 ②（就労以外の相談へも対応）

- 行政機関や専門機関への同行・相談の調整
- 債務整理等の援助（弁護士・法テラスへのつなぎ）
- 金銭管理（本人にその意思がある時）
- 生活相談、就労相談
- フードバンクの提供

(7) 就労準備ハウスの特徴 ③（設置地域）

設置箇所を1か所に固定せず、相談者の希望に応じて、設置箇所を柔軟に対応。（詳細な住所は非公開）

- 札幌市豊平区（東豊線学園前駅・南北線平岸駅から徒歩10分圏内）
- 札幌市白石区（東西線菊水駅から徒歩10分圏内）
- 札幌市中央区（南北線中島公園駅から徒歩12分圏内）
- 札幌市東区（東豊線東区役所駅、元町駅から徒歩13分圏内）

(8) 就労準備ハウス居室



★広さ／13㎡～25㎡

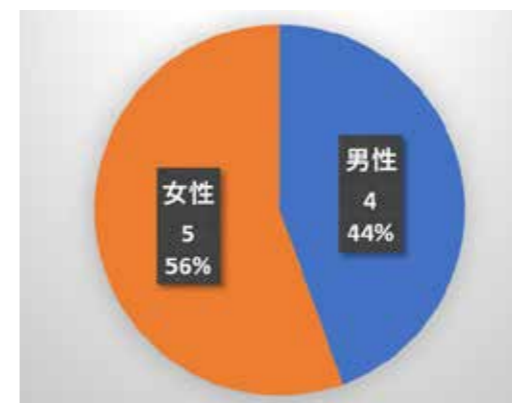
★間取り／1R・1DK・ロフトタイプ・メゾネットタイプ等

★基本設備

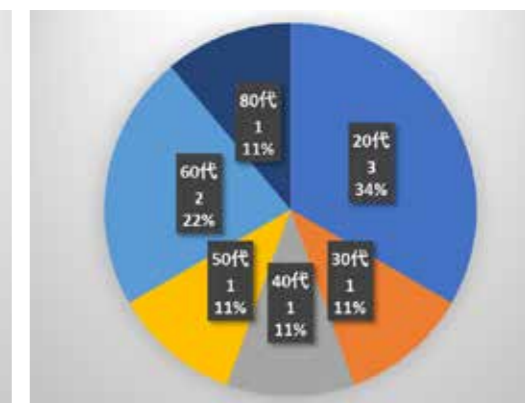
風呂・トイレ・台所・給湯器・ストーブ・冷蔵庫・洗濯機・
電子レンジ・ベッド・布団・炊飯器・テレビ・トースター・
掃除機・食器棚・IHコンロ・掃除機等

2 利用者の状況 (利用人数9名)

①性別



②年代



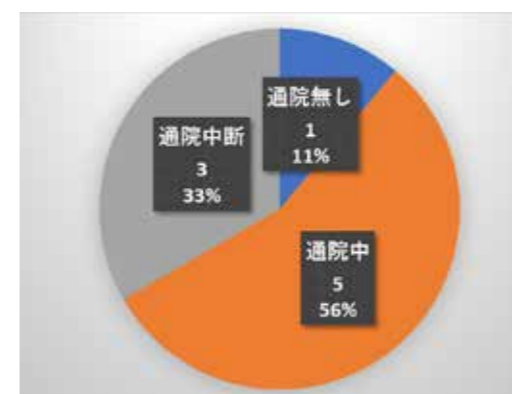
③住まいを失った背景



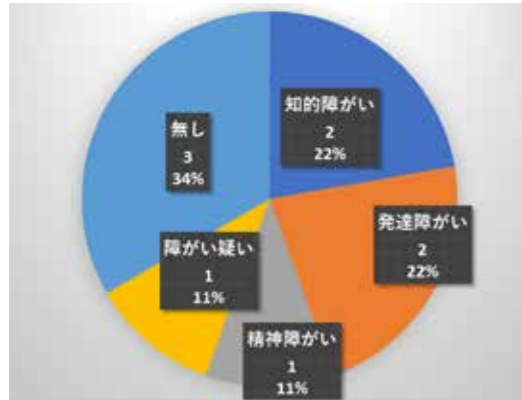
④相談開始時の就労状況



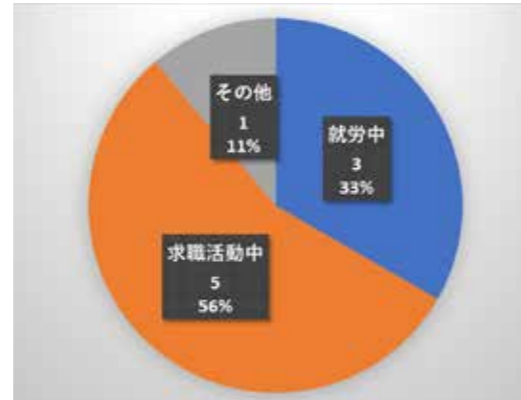
⑤相談開始時の通院状況



⑥障害の有無



⑦ 2023年2月末の就労状況



⑧事業利用終了後の継続居住



⑨事業利用日数と年代

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
0日～30日	2		1	1				4
31日～60日								0
61日～90日	1							1
91日～120日		1			1			2
121日～150日								0
150日以上					1		1	2
合計	3	1	1	1	2	0	1	9

5 支援事例



—50代・男性

幼い頃に実父が失踪。母子で日高の飯場で暮らす。その後、祖母のいる苫小牧市に転居し、実母が再婚。高等学校を中退し、土木建築関連業に就き、現場を転々とする生活を送ってきた。

2021年夏頃より新型コロナウイルス感染拡大の影響で仕事が激減。仕事に行く機会が減り、食事や間食の量が増え、体重が30キロ以上増加し、膝の不調を感じた。2022年1月より仕事をしながら30kgの減量をするも膝の状態が良くなり、また、仕事が減った状況が続き、居所と仕事を失った。心配した同僚が札幌市ホームレス相談支援センターJOINを紹介。シェルターを利用しながら求職活動を行ったが、仕事が見つからなかった。

シェルター支援員から就労準備ハウスの情報提供があり相談につながった。利用開始後も、積極的に求職活動を行っていたが、膝の調子が回復しないことや、携帯電話や身分証も無いことなど、まずは膝の治療と就労に向け生活基盤を安定させることを優先させるため、生活保護を利用。仕事に向けて、携帯電話の契約、マイナンバーカードの取得、通帳の作成。膝の治療を行いながら、求職活動を開始。これまで、建設現場の仕事しかしたことが無いことから、職業訓練の参加も検討している。

—20代・女性

高校卒業後、来札。幼い頃から、両親との関係が悪く、金銭トラブルもあり、来札後は音信不通。すすきので働きながら、専門学校を卒業。卒業後は、すすきの飲食店の店主や風俗店の受付などをしてきた。2020年3月から、飲食店の売り上げが激減、ストレスが極限状態となり、お客さんとトラブルになり解雇となった。その後、知人の勧めで精神科を受診、発達障がいと統合失調症の診断を受けたが、生活が苦しく通院はしていなかった。風俗店の受付をしながら知人宅で生活をしてきたが、知人宅に父親が訪ねてきたことをきっかけに、知人宅が安全な場所ではなくなったと感じ、住まいを失った。ネットカフェや友人宅を転々としながら生活をしてきたが、新型コロナウイルス感染拡大による行動制限が度々あり、風俗店が廃業。仕事を失い、当法人に相談。就労準備ハウスの利用につながった。

本人の状況も踏まえ、短時間の就労を勧めてきたが、本人が拒否。就労相談を重ねながら、生活基盤の安定を優先させることを提案。一旦、生活保護を利用し、生活基盤を安定させ、就労支援を実施してきた。飲食店で働いていた時の知人から求人の連絡があり、現在の状況（長時間の就労は難しい）などを説明し、短時間の受付事務の仕事に就くことができた。就労後も、定期的に自宅を訪問し、継続的に関わっている。





公益財団法人パブリックリソース財団が行うコロナ寄付プロジェクト「雇用喪失・生活困窮分野助成基金」の助成を受け、本事業を2022年7月～2023年2月末まで実施してきた。本事業は9名の方が利用し、延べ679日利用した。

本事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で仕事と住まいを失った方に、住まいを確保し、就労支援を実施することを目的としていた。そのため、稼働年齢層やすぐに就労が可能な方を想定していたが、実際に事業を開始すると、新型コロナウイルス感染拡大の影響で失業はしているものの、医療機関への受診を中断している方、治療は必要だが医療機関に行けない方が非常に多かった。また、障がいを抱えている方も多くいた。本人は仕事を強く希望していても、体調面や生活上の課題も多く、仕事を開始する前に、生活基盤を整えるための支援が中心となった。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きいですが、それ以前から抱える健康上、生活上の課題について、ひとりでは取り組むことが出来ず、不安定居住や生活困窮状態に苦しんできた方が多かったように感じた。また、その状況が当たり前になることで、不安定就労を繰り返してきた方もいた。

本事業を通じて、仕事と住まいを失った方が、就労に向けての支援により、仕事に就くことが出来たこと、また仕事に向かうための生活基盤を確保し、求職活動に専念できる環境を確保できたのは大きな成果だと感じている。



特定非営利活動法人
コミュニティワーク研究実践センター

札幌市中央区南8条西2丁目
市民活動プラザ星園

TEL:011-206-9565 FAX:011-511-1316
<http://www.cmtwork.net/>